



Poco ZEFIRO

カトリック桂教会 広報紙

Vol. 10
2018年クリスマス号

編集・発行
カトリック
桂教会広報部



メリー クリスマス

担当司祭 アントニオ・カマチョ

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」(ルカ2章14節)

今年もクリスマスがやって来ました。私たちのために神の子が人となられたこと、救い主が生まれたことを教会は喜び祝います。イルミネーションによる飾りつけ、もみの木、馬小屋、クリスマス劇……、そして何よりも、クリスマスのミサは教会がいつも以上に人であふれます。

人びとがイエスの誕生の出来事の意味とそのままに気づいてクリスマスを迎え始めるのは、ずっと後になってからのことです。そのためには、死んで復活されたイエスに出会い、この方こそ本当に救い主であるということに気づく必要があります。こうして、あのとき(イエスの誕生のとき)、自分たちは気づかなかったけれども、すでに神が救いの計画を実現し始めておられたのだ、ということの人びとは理解したのです。

そこで、私たちの日々の生活を振り返ってみると、日常の中で働かれる神の業をなかなか感じ取ることが出来ません。または、出来にくいように思います。キリストによって救われた、と言いますが、この救いを実感することも簡単なことではありません。どうやら、神の業はそのときはほとんど気づくことなく、後になって振り返ってみて、『あのとき、確かに神が私を支えてくれた。私の中で救いの業を実現してくれた』と理解する場合がほとんどのようです。

神は、救い主イエスの誕生のときにそうなさったように、隠れた方法で働かれるからです。社会が忙しくなってしまうためでしょうか。今、私たちはあまりこのような時間を大切にしません。こうして、私たちは自分の中で、自分の周りで実現している神のすばらしい救いの業にほとんどの場合気づかずに過ごしてしまっていると思います。

クリスマスを祝うということは、私たちがそのときは気づかずに過ごしてしまった救い主の誕生という神の偉大な業を思い巡らし、神に賛美と感謝を捧げることです。しかも、神は今も私たちの中で働かれているはずですから、この機会にちよつと立ち止まって(願わくば、この機会だけでなく毎日少しずつ)自分自身の歩みを振り返り、思い巡らしてみましよう。きつと、これまで気づかなかつた、しかし自分の中で行われた神の救いの業に気づくことができると思います。そして、自然に神への賛美と感謝があふれ出てくることと思います。

今度ミサに与かる時には、もっと意識しながら、又、クリスマスのミサ、イエスの誕生の出来事の『すばらしさ』と『おめぐみ』に気づいて祝いましよう。

皆様にメリークリスマスがありますように!!

